

ALB BiH NFFIS & NbS for DRR/Eco-DRR Newsletter

-アルバニア国 国家森林火災情報システム(NFFIS)と自然を基盤とした解決策を通じた災害リスク削減(NbS-DRR)実施能力向上プロジェクト
 -ボスニア・ヘルツェゴビナ国 国家森林火災情報システム(NFFIS)とEco-DRRによる災害リスク削減のための能力強化プロジェクト
 プロジェクト実施期間:2024年6月~2029年6月

本プロジェクトの目的は、森林火災及びその他自然災害の防災・減災にかかる政府関係者の能力がNFFIS 及び生態系を活用した防災・減災(NbS for DRR/Eco-DRR) の導入を通じて強化されることです。Vol1では、本プロジェクトの概要をご紹介します。

プロジェクトの背景

森林火災等、地域共通の自然災害の防災・減災に寄与するため、北マケドニア等で開発した森林火災情報システムやNbS for DRR/Eco-DRRを横展開し、西バルカン協カイニシアティブ※の名の下、地域全体で政府関係者の能力向上を図ることとなりました。

※西バルカンイニシアティブとは、EU加盟を目指す西バルカン地域各国の経済社会改革を支援し、西バルカン地域の各国間の協力を促進させることを目的とし、地域全体の課題である防災、環境等の分野で日本の知見を共有すること

【カウンターパート機関】

国家市民保護庁 (NCPA)



地球科学研究所(IGEO)、国家林業庁(NFA)、ティラナ上下水道公社(UKT)、首相府地理管理事務局(ASIG)、等

プロジェクトの概要

【プロジェクト名】

-アルバニア国 国家森林火災情報システム (NFFIS) と自然を基盤とした解決策を通じた災害リスク削減 (NbS-DRR) 実施能力向上プロジェクト

-ボスニア・ヘルツェゴビナ国 国家森林火災情報システム (NFFIS) とEco-DRRによる災害リスク削減のための能力強化プロジェクト

【対象地域】

NFFIS：全域

アルバニア(NbS for DRR)：ポピラ湖

ボスニアヘルツェゴビナ(Eco-DRR)：ジェリエズニツァ川

【プロジェクト期間】

2024年6月~2029年6月 (5年間)

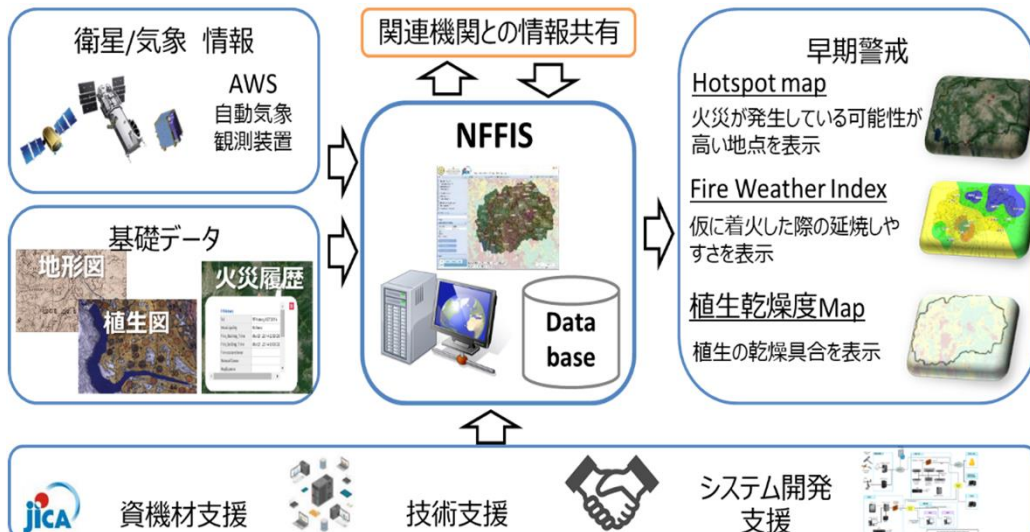


保安省(Ministry of Security)

ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦市民保護局、スルプスカ共和国市民保護局、ブルチコ行政区公共保安局、等

NFFISとは？(成果1)

NFFIS (National Forest Fire Information System -国家森林火災情報システム) は、森林火災の予防と早期警戒のための統合Web-GISシステムで、関連機関間の情報共有を促進します。



衛星や気象のデータと地形図、植生図などの基礎データを組み合わせることで、

火災が発生している可能性が高い地点を表示したり、延焼のしやすさ、乾燥具合を表示でき、早期警戒に活用することができます。

※画像は北マケドニアのものです。

NbS for DRR/Eco-DRRとは？(成果2)

生態系は多様な機能を持っており、例えば森林は木材生産以外に、土壌保全、水源涵養、保健休養、生物多様性といった多くの機能を発揮することができます。

持続可能で回復力のある環境を実現するために、災害リスクを低減するための生態系の持続可能な管理、保全および復旧を実施することをNature based solution (NbS) for DRRまたはEco-DRR(生態系を活用した防災・減災)と呼びます。

アルバニア:土壌侵食防止と流域管理

首都ティラナへの重要な給水源であるボビラ湖は堆砂と濁度2つの課題を抱えています。最も下にある採水口より下はすでに完全に土砂で埋まっていると推計されており、2019年以降は利用可能な貯水容量が徐々に減少していると懸念されています。また、大雨の後には高濁度により浄水場での水質処理に負担がかかることから、過去に給水量を調節せざるを得ない事態が発生しています。これらの課題に対し、プロジェクトではNbS for DRRを技術的解決策の一つとして展示的に実施し、プロジェクト完了後もNbS for DRRの手法が対象流域で広く採用されることを目指します。

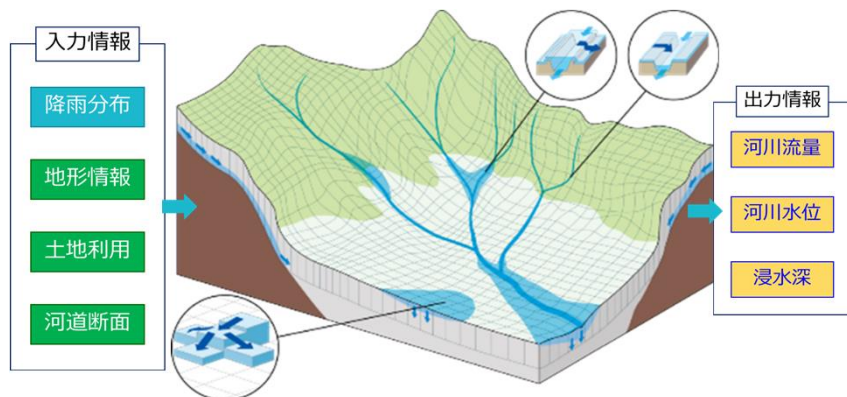


石積み工



ボビラ湖における河口付近の堆砂
(2024年11月26日撮影)

ボスニア・ヘルツェゴビナ:洪水予測モデル



洪水予測モデル



2021年11月洪水被害の様子
(トルノヴォ自治区より提供)

ボスニア・ヘルツェゴビナでは、洪水や旱魃、森林火災等の増加や激甚化が報告されており、EU等が支援し、ハザードマップ作成、早期警報システム開発、構造物の導入等が進められています。しかし、住民レベルの災害理解や防災対策は、具体的な活動が少なく、遅れている状況です。プロジェクトでは、首都の南西にあるジェリエズニツァ川流域の洪水を対象とし、洪水予測モデル開発、洪水浸水マップ作成等のパイロット活動を実施します。また、この活動アプローチは、仙台防災枠組の「災害リスクの理解」等への寄与も期待されています。これらの活動を通じ、効果的なEco-DRRの定着と、普及展開を目指します。



洪水リスクマップ
(UNが作成したマップを基に作成)

AWS (Automatic Weather Station) : 気象観測を目的とする自動気象観測システム

NbS (Nature based Solution) : 自然を基盤とした解決策

DRR (Disaster Risk Reduction) : 新たな災害リスクを防いだり、既存の災害リスクを軽減すること